

# 仏様のおはなし新シリーズ第7・8集 「現世祈祷などにたよらない生き方」

浄土真宗の教章（私の歩む道）の中の生活に、「親鸞聖人の教えにみちびかれて、阿弥陀如来のみ心を聞き、念佛を称えつつ、つねにわが身をふりかえり、慚愧と歡喜のうちに、現世祈祷などにたよることなく、御恩報謝の生活を送る。」とあります。この中の「現世祈祷などにたよることなく」という文言を私なりに窺つてみたいと思います。ある国語辞典によりますと、「現世」とは現在の世の中、「祈祷」とは、神仏に祈ることとあります。そのまま読めば、現在の世の中のことと神仏に祈るということになりますが、実際には、私または私に属するもののみが良くなるようにお願いする、と見て取れます。一方、浄土真宗の教章（私の歩む道）では、そのような行為にたよらないで生きていくよう説いています。では何故、現世祈祷などにたよらない生き方が求めら  
れでいるのでしょうか。

近年、自分優先・自國優先の考えが一部に広がっているように思えます。自分たちのために他者は後回し、あるいは他者はどうでもいい、ということでしょうか。大変恐ろしいことです。差別や抑圧、さらには戦争という悲惨な出来事は、何によつて引き起こされてきたのでしょうか。また、現在も世界のいたるところで苦しみの中に生きていかざるを得ない多くの人々がいます。私も、その根本の原因を正しく知らなければならぬ一人です。

仏教は、縁起の道理に基いて説かれている宗教です。すべてのものは、互いに関係しあい、互いに生かしあつて存在します。仮に他者を傷つけるとすると、それは自らを傷つけることになるのです。抑、人間は他者のお陰で生きてきたし、今現在も他者のお陰で生きています。これから先もそのことが変わることはできません。

現世祈祷などにたよらない生き方が求められているのは、その根本に、他者を傷つけてはならない、他者のお陰で生きている、そのことに目ざめて生きていくよう願われているからと窺います。

